



佐渡のお正月行事「どんどやき」

佐渡では、小正月に五穀豊穡や無病息災を願うため、各集落で「とうらやさん」（どんどやき）という行事が行われます。集落内には「とうらやさん」の当番の方がいて、火がうまく燃え上がるような工夫として、秋の稲刈りの際に専用のワラを確保するなど、毎年いろいろな工夫をしているそうです。集落のお父さんたちは、竹などを用意し組み立て、時間になると各家からお母さんや子供たちが神棚の飾りや神社からもらったお札などをもって集まります。火が燃え上がり、みんなが持ってきたお飾り等が燃え、組んであった竹が燃え崩れると、みんなで餅やスルメイカなどを竹に挟んで焼いて食べます。お父さんたちはお酒を飲みながら盛り上がり、火が消えてもしばらくは賑やかな声が響いていました。



2015年冬季地域座談会

1月19日から、島内各地域において座談会が行われています。27年度のJAの各事業別の取組みについてや、平成26年産稲作の反省点と27年産米品質向上対策などについてJA役員より説明しました。その後組合員のみなさんとの懇談の中で、米価の問題、生産コストの高騰、米生産者の高齢化傾向等について、地域における問題点などを共有しながら、今後のJA事業の在り方について意見を出し合いました。



佐渡でまた新種を発見 - ヘリジロコモリグモ

佐渡市内の水田において、東京大学と新潟大学の研究グループが発見したクモが、新種であることが確認されました。佐渡市では、カエル、ナマコに続き新種の発見が相次いでおり、専門家は「豊かな自然が残っている証し」と話しています。頭胸部の縁に白いしま模様があるのが特徴です。その姿を見たい方は、インターネットで検索してみてください。

有限会社 斎藤農園 代表取締役

斎藤真一郎さん(53) (さいとう しんいちろう)

佐渡で生まれ育った斎藤さんの農園は、水稲2400a・おけさ柿2000a・ネクタリン・桃60a・りんご60a・いちご880坪を経営しています。

今は新潟フランドいちご「越後姫」の収穫の季節です。斎藤さんが「農家の長男として生まれ、卒業後農協に入り、営農指導員として勤めていました。農業をやりたいという夢があって、農協を退職し、平成11年に「斎藤農園」を設立し夢を実現しました。佐渡の環境に適したいいものを作るために、品目・品種の組み合わせはとても大切に、栽培技術など常にアンテナを高くして経営の安定化に努力をしています。米の無農薬栽培で安定して収穫できるようになるまで10年もかかりました。現在、1000aのトキ認証米は低農薬で栽培しています。

農園では100名位の臨時雇用の方を頼んでいます。収穫した農産物は主にJAや贈答用と地元の直売所に出荷しています。佐渡には農業体験が出来る場所が無いので、これからは観光型農業を視野に入れ、観光客や地元の人たちに「いちご狩り」が出来るようにしたい。農業は人と人のつながりが無限に広がって、自分で深く考えることが楽しいところでもある。

佐渡は何でも作れるから、トキが増えることによって、消費者に安全・安心をアピールすることができ、自分も常に消費者目線で、美味しいものを作ってみんなに感動をお届けしたい。これが農業をやり続ける一番のやりがいです。」とおっしゃっていました。

JA佐渡の経営管理委員も務めている斎藤さんは「農協は農家の目線で、農家のために仕事をするのが大切」と話されました。



斎藤真一郎さん

いちご 100%



越後姫

Fruits&Café Saito



新メニュー出来そうだね!